資料２

第２期高槻市スポーツ推進計画
前期実施計画
（令和３年度～令和７年度）

令和８年度進捗状況報告（概要）

第2期高槻市スポーツ推進計画の方向性

実現目標

スポーツを通じて『市民の活力』を増進し、
『街のにぎわい』につなげる

基本方針

- スポーツ参画人口の拡大
- スポーツを通じた健康の増進
- スポーツを通じた人・地域のつながりの強化

施策の展開

- 施策①　ライフステージや競技性に応じた環境づくり
- 施策②　多様な人々への機会の提供
- 施策③　施設の有効活用やシステムづくり

前期実施計画の概要

策定の趣旨

第2期高槻市スポーツ推進計画前期実施計画（以下「本実施計画」という。）は、第2期高槻市スポーツ推進計画（令和3（2021）年3月策定）で示した基本方針に基づき、担当課が展開していく施策や事業を総合的・体系的に示すものです。スポーツを通じて「市民の活力」を増進し、「街のにぎわい」につなげることを目指して、毎年進行管理を行い、計画の実効性確保に努めます。

計画期間

スポーツを取り巻く環境の変化や進行状況、時々の課題に合わせて柔軟に対応するため、本実施計画の期間は令和3（2021）年度から令和7（2025）年度までの5年間としています。なお、本実施計画は、ローリング方式（長期計画と実績の乖離を防ぐために、施策・事業の見直しや修正を定期的に行うこと）により毎年見直しを行います。

前期実施計画の指標

目標値

項　　目	計画策定時値 令和2（2020） 年度	経過値 令和3 （2021） 年度	経過値 令和4 （2022） 年度	経過値 令和5 （2023） 年度	経過値 令和6 （2024） 年度	現状値 令和7 （2025） 年度	目標値<前期> 令和7（2025） 年度
成人の週1回以上のスポーツ実施率	44.2%	52.0%	52.7%	48.1%	46.3%	48.2%	55 %

※令和12年度目標値：65%

（参考）スポーツ庁の調査結果

項　　目	令和2 （2020） 年度	令和3 （2021） 年度	令和4 （2022） 年度	令和5 （2023） 年度	令和6 （2024） 年度	令和7 （2025） 年度	目標値 令和8 （2026）年度
成人の週1回以上 の スポーツ実施率	59.9%	56.4%	52.3%	52.0%	52.5%	51.7%	70%

前期実施計画の指標

参考数値

項　目	計画策定時値 令和2(2020)年度	経過値 令和3(2021)年度	経過値 令和4(2022)年度	経過値 令和5(2023)年度	経過値 令和6(2024)年度	現状値 令和7(2025)年度
成人のスポーツ未実施率 (1年間に一度もスポーツをしない人)	33.0 %	24.9 %	22.7 %	25.3 %	30.1%	28.0%
健康寿命	男　81.2歳 女　85.1歳 ※平成30(2018)年	男　82.0歳 女　86.1歳 ※令和元(2019)年	男　82.2歳 女　86.0歳 ※令和2(2020)年	男　81.3歳 女　85.8歳 ※令和3(2021)年	男　80.8歳 女　85.2歳 ※令和4(2022)年	男　81.5歳 女　85.8歳 ※令和5(2023)年
子どもの体力・運動能力(T得点)	◇小学5年生 男:49.2　女:48.1 ◇中学2年生 男:47.8　女:49.0 ※令和元年度	◇小学5年生 男:49.5　女:48.1 ◇中学2年生 男:46.7　女:46.6	◇小学5年生 男:48.2　女:47.1 ◇中学2年生 男:48.3　女:47.4	◇小学5年生 男:48.1　女:47.4 ◇中学2年生 男:48.3　女:47.5	◇小学5年生 男:48.9　女:47.6 ◇中学2年生 男:48.4　女:46.9	◇小学5年生 男:48.1　女:47.3 ◇中学2年生 男:47.2　女:46.7
大規模スポーツイベントの参加者数	― ※新型コロナウイルス感染症の影響により全事業中止	― ※新型コロナウイルス感染症の影響により全事業中止	約2万人 ※新型コロナウイルス感染症の影響で合同体験教室は人数制限を設けた ※市民スポーツ祭は台風により中止	約2.8万人 ※市民スポーツ祭は雨天により屋外中止 ※ラジオ体操を実施	約2.7万人 ※オリックス戦は雨天により2日中、1日中止 ※ラジオ体操は未実施(令和5年度のみの事業)	約2.8万人
スポーツ施設の利用者数	約114万人	約118万人	約152万人	約161万人	約161万人	約156万人

前期実施計画の総括①

令和7年度実績で、成人の週1回以上のスポーツ実施率は48．2%
⇒前期目標値である55%には届かず

〇計画策定時値（令和2年度）の44．2%は上回るものの、更なる取り組みが望まれる。

＜高槻市を取り巻く状況＞
・コロナウイルス感染症流行当時と比較して、現在は、スポーツイベント参加者数、施設利用者数は順調に回復している

～市民意識調査より～
（スポーツ実施率）
・60歳代以上⇒スポーツ実施率は高く、過去5年間（令和3～7年度）の平均値は前期目標値を上回る
・50歳代以下⇒目標値を下回り、40歳代以下は顕著
（スポーツをやらない主な理由）
・30・40歳代⇒「仕事や家事で時間がない」
・20歳代以下⇒「一緒にやる仲間がいない」「スポーツが嫌い」

前期実施計画の総括②

＜後期実施計画の取組・事業を進めるにあたって＞

〇考慮すべき年代ごとの特色（スポーツ実施率、スポーツをやらない理由）

・60歳代以上
☞引き続き取組を進め、スポーツ実施率の更なる向上を目指す

・50歳代以下
☞時間がない中でのスポーツへの関わり方の工夫
☞仲間づくりの機会の提供
☞スポーツに親しみを持てるような啓発　　・・等

施策ごとの主な取組

1　ライフステージや競技性に応じた環境づくり

①子どものスポーツ活動の推進（事業No.1～4）

○評価

- 総合スポーツセンター、市民プールなどの市立スポーツ施設において、子ども向けの教室を実施したほか小中学校の部活動の支援などを通じて子どものスポーツ活動の推進に努めた。
- 教室の実施回数について、計画通りに実施がされた。
- スポーツ団体協議会と連携し、合同スポーツ体験教室を開催した。

○令和8年度の主な計画（後期実施計画）

- 子ども向け教室の実施
- 「小学生を対象とした合同スポーツ体験教室」の実施
- （新規）2種目6校で、休日の部活動地域展開を試行実施
- （新規）民間事業者の3施設で、小学校10校の水泳授業を試行実施

【合同スポーツ体験教室】







1　ライフステージや競技性に応じた環境づくり

①子どものスポーツ活動の推進（事業No.1～4）

○主な指標（各種教室実施回数）

事業No. 1　子ども向け教室の推進

内　容	令和3年度（実績値）	令和4年度（実績値）	令和5年度（実績値）	令和6年度（実績値）	令和7年度（実績値）
幼児体操教室ほか【総合体育館】	108回	120回	140回	140回	130回
ジュニア体育＆スポーツ教室ほか【古曽部体育館】	77回	100回	120回	120回	120回
幼児スイミングほか【市民プール】	517回	644回	604回	606回	756回
水泳教室【番田温水プール】	4,196回	5,296回	3,933回	4,050回	4,050回
水泳教室【クリンピア前島】	686回	836回	880回	880回	856回

令和5年度から、教室の実施方法が変更されています。

1　ライフステージや競技性に応じた環境づくり

②成人のスポーツ活動の推進（事業No.5～11）

○評価

- 総合スポーツセンター、市民プールなどの市立スポーツ施設において、成人向けの教室を実施したほか大阪府総合体育大会、三島地区総合体育大会への参加支援などを通じて成人のスポーツ活動の推進に努めた。
- 指導者向けの講習会を実施するなど知識の向上を図った。
- 教室の実施回数などの指標は、昨年度の実績と同程度、概ね計画通りに実施がされた。

○令和8年度の主な計画（後期実施計画）

- 成人向けの教室の実施
- 大阪府総体等への参加を支援
- スポーツ団体協議会加盟団体に公認スポーツ指導者資格講習会への参加を奨励
- 指導者向け講習会の実施

1　ライフステージや競技性に応じた環境づくり

②成人のスポーツ活動の推進（事業No.5～11）

○主な指標（各種教室実施回数）

事業No. 5　成人向け教室の推進

内　容	令和3年度（実績値）	令和4年度（実績値）	令和5年度（実績値）	令和6年度（実績値）	令和7年度（実績値）
かんたんエクササイズ【古曽部体育館】	23回	30回	30回	30回	30回
アクアビクスほか【市民プール】	875回	1,129回	1,286回	1,220回	1,220回
水泳教室【番田温水プール】	702回	784回	382回	386回	386回
大人水泳教室ほか【クリンピア前島】	1,905回	2,280回	2,280回	2,244回	2,244回

令和5年度から、教室の実施方法が変更されています。

1　ライフステージや競技性に応じた環境づくり

③高齢者のスポーツ活動の推進（事業No.12～15）

○評価

- 総合スポーツセンターなどの市立スポーツ施設において、高齢者向けの教室を実施したほか市立プールにおける高齢者割引を通じて高齢者のスポーツ活動の推進に努めた。
- 「高槻市ますます元気！健幸ポイント事業」や「高槻ますます元気体操」の実施等によって健康行動の定着化を図った。
- 教室の実施回数などの指標は、昨年度の実績と同程度、概ね計画通りに実施がされ、高齢者割引実施者数は、新型コロナウイルス感染症前の令和元年数値を上回った。

○令和8年度の主な計画（後期実施計画）

- 高齢者向けの教室の実施
- 市立プールの高齢者割引の実施
- 「高槻市ますます元気！健幸ポイント事業」や「高槻ますます元気体操」の実施等によって健康行動の定着を推進

1　ライフステージや競技性に応じた環境づくり

③高齢者のスポーツ活動の推進（事業No.12～15）

○指標（各種教室実施回数）

事業No. 12　高齢者向け教室の推進

内　容	令和3年度（実績値）	令和4年度（実績値）	令和5年度（実績値）	令和6年度（実績値）	令和7年度（実績値）
健康維持スポーツ【総合体育館】	23回	30回	30回	30回	30回
楽ラク健康づくりほか【古曽部体育館】	33回	40回	40回	40回	40回

○指標（高齢者割引実施者数）

事業No. 13　プールの高齢者割引の実施

内　容	令和3年度（実績値）	令和4年度（実績値）	令和5年度（実績値）	令和6年度（実績値）	令和7年度（実績値）
割引実施者数	33,082人	41,909人	49,055人	56,186人	66,042人

2　多様な人々への機会の提供

①スポーツ推進委員の活用（事業No.16～19）

○評価

- スポーツ推進委員と連携し、市内小学校等でイベントを実施し、地域に密着した事業の充実を図ったほか、スポーツ推進委員主催イベントを開催し、ニュースポーツの普及啓発等を行った。
- スポーツ推進委員の指導力向上のため、全国スポーツ推進委員研究協議会をはじめとする各種研修会に積極的に参加した。

【ニュースポーツの集い】



【ライフチャレンジザ・ウォーク】



○令和8年度の主な計画（後期実施計画）

- スポーツ推進委員と連携し、市内小学校等で地域事業を実施
- 主催のチャレンジ・ザ・ウォーク、ニュースポーツの集い等を実施
- 全国スポーツ推進委員研究協議会等の各種研修会に参加

2　多様な人々への機会の提供

②障がい者スポーツの推進（事業No.20～22）

○評価

- 障がい者スポーツイベント（ふれあいレクリエーションスポーツの集い）の実施や市立スポーツ施設での教室の実施を行った。
- 教室の実施回数は、計画通りに実施された。

○令和8年度の主な計画（後期実施計画）

- 障がい者向けスポーツイベントや教室を実施
- 合同スポーツ体験教室にて障がい者スポーツ体験の機会を提供

○主な指標（各種教室実施回数）

事業No. 21　障がい者向け教室の推進

内　容	令和3年度（実績値）	令和4年度（実績値）	令和5年度（実績値）	令和6年度（実績値）	令和7年度（実績値）
障がい児親子体操教室ほか【総合体育館】	30回	45回	45回	45回	45回
障がい児親子体操教室ほか【古曽部体育館】	42回	45回	45回	45回	45回
身体障がい者スイミングほか【市民プール】	87回	120回	120回	120回	120回

2　多様な人々への機会の提供

③多様な交流の推進（事業No.23～26）

○評価

- 地区コミュニティ等が主催する地域運動会の開催を支援したほか、関西大学と連携し、アイスアリーナの市民開放事業を実施した。
- ガンバ大阪（サッカー）、オリックス・バファローズ（野球）、サントリーサンバーズ大阪（バレーボール）といったトップチームと連携し、事業を実施した。
- 元プロ野球選手の久保田智之氏と連携し、わくわくベースボールの集いを、また、元プロ野球選手の江草仁貴氏と連携し、子供向け野球イベント「リアルtoss野球盤」を実施した。
- 高槻シティハーフマラソン実行委員会と連携して、和歌山ジャズマラソンへの市民選手団の派遣及び姉妹都市を招待するなどの事業を実施した。

【オリックス・バファローズファーム公式戦の様子】



【ガンバ大阪市民応援デーの様子】



○令和8年度の主な計画（後期実施計画）

- 高槻シティハーフマラソン実行委員会と連携し、和歌山ジャズマラソンに市民選手団を派遣
- ガンバ大阪等のトップチームと連携し、事業を実施

2　多様な人々への機会の提供

④総合型スポーツクラブの推進（事業No.27）

○評価

- 市ホームページにおいて、総合型スポーツクラブに関する情報を掲載するなど、情報発信を行った。

○令和8年度の主な計画（後期実施計画）

- 市ホームページに総合型スポーツクラブに関する情報を掲載し、認知度向上を図る

【市内の総合型地域スポーツクラブ】

クラブ名	設立	活動拠点
NPO法人さくらスポーツクラブ	平成14年7月	寿栄小学校
NPO法人高槻北グリーンクラブ	平成18年6月	真上小学校、第二中学校

○主な指標（会員数）

事業No. 27　総合型スポーツクラブへの支援

クラブ名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
NPO法人さくらスポーツクラブ	277人	280人	250人	275人	255人
NPO法人高槻北グリーンクラブ	254人	253人	231人	269人	249人
合計	531人	533人	481人	544人	504人

2　多様な人々への機会の提供

⑤大規模スポーツイベントの充実（事業No.28～30）

○評価

- 実行委員会との協働等により、市民スポーツ祭、高槻シティハーフマラソンや高槻クロスカントリー大会、合同スポーツ体験教室を開催し、多くの市民にスポーツの機会を提供し、「する」「みる」「ささえる」スポーツへの関わりを推進した。

○令和8年度の主な計画（後期実施計画）

- 市民スポーツ祭、シティハーフマラソン、クロスカントリー大会等を継続実施


【市民スポーツ祭】



【シティハーフマラソン】


【クロスカントリー大会】

3　施設の有効活用やシステムづくり

①スポーツ環境の整備・充実（事業No.31～33）

○評価

- 既存の市立スポーツ施設（総合スポーツセンター陸上競技場第４種ライト公認更新改修、古曽部防災公園体育館照明LED化改修等）やハイキングコース等の維持管理、環境整備を行った。

○令和8年度の主な計画（後期実施計画）

- 市立スポーツ施設の整備（市民プール省エネ改修（空調改修、LED改修など）、青少年運動広場人工芝張替、第二中学校夜間照明設備新設、さくらスポーツクラブクラブハウス空調更新）
- ハイキングコースの維持管理を委託し、環境整備

3　施設の有効活用やシステムづくり

②身近なスポーツ環境の活用（事業No.34～35）

○評価

- ウォーキング道を活用し、ハイキング協議会によるハイキングイベントや観光協会等と連携したウォーキングイベントを実施した。
- 市役所・観光協会等の窓口でウォーキングマップを配布し、市ホームページでも周知を行った。
- 安満遺跡公園及び摂津峡公園にてチャレンジ・ザ・ウォークや市民オリエンテーリング大会を実施した。

○令和8年度の主な計画（後期実施計画）

- ハイキング協議会においてハイキングイベントを実施
- 市役所・観光協会等の窓口でウォーキングマップの配布、市ホームページでの周知
- 安満遺跡公園及び摂津峡公園にてチャレンジ・ザ・ウォークや市民オリエンテーリング大会の実施

3　施設の有効活用やシステムづくり

③管理運営方法の見直し（事業No.36～37）

○評価

- 令和3年度に徴収委託制から利用料金制へ条例改正による制度変更を行ったうえで、公募手続きを経て、総合スポーツセンター総合体育館ほか10施設、萩谷総合公園、古曽部防災公園を一括で指定管理者の指定を行った（指定期間：令和4年度～令和8年度）。
- 新指定管理者と効果的・効率的な運営を行えるよう利用形態等の調整を行った。

○令和8年度の主な計画（後期実施計画）

- （新規）スポーツ施設における利用形態、利用時間、利用料金等を検討し、必要に応じて調整を行う。

3　施設の有効活用やシステムづくり

④学校開放事業の推進（事業No.38～39）

○評価

- 学校開放事業について、各学校開放運営委員会へ業務を委託し、小学校40校、中学校18校の運動場・体育館を地域住民に開放した。開放日数及び延べ利用者数について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大幅に減少していたが、順調に回復してきている。

○令和8年度の主な計画（後期実施計画）

- 令和7年度末までに全校で空調設置が完了したことに伴い、全校でのキャッシュレス決済の運用開始

○主な指標（開放日数、利用者数実績）

事業No. 38　学校体育施設の利活用

項　　目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
開放日数	11,508日	16,470日	17,343日	17,153日	17,809日
延べ利用者数	382,998人	521,777人	556,243人	564,705人	526,800人

3　施設の有効活用やシステムづくり

⑤安全・安心の確保（事業No.40～44）

○評価

- 安全・安心にスポーツを実施できる環境を提供するため、AEDの適切な管理や救命講習会、安全講習会を実施した。
- スポーツ安全保険への加入奨励として市内各所に案内チラシを配布、市ホームページでスポーツ安全協会を周知した。
- 熱中症予防の啓発として、ポスターの掲示等を行った。
- 雷発生時の施設キャンセル基準を設定（一定条件のもとでキャンセル料なしでのキャンセル可）

○令和8年度の主な計画（後期実施計画）

- 安全・安心にスポーツを実施できる環境を提供するため、継続して救命講習会や安全講習会を実施
- 熱中症予防の啓発として、ポスターの掲示等を行う。